

十一月は霜月。『奥義抄』に「霜しきりにふるゆえに霜降月」とあるように、新暦ではまだ霜をみることは稀ですが、草木の葉はぬれ、やがて紅葉、落葉の季節となり、霜月らしくなってきました。

【文化の日】十一月三日

十一月三日は、昭和二十年八月の終戦までは「明治節」（明治天皇御誕生日）でした。近代日本を創られた明治天皇の治績を偲び、日本の伝統・文化を受け継ぐ心を奮い立たせる日として、この日を文化の日（昭和二十三年七月二十日制定）としました。明治天皇は、常に世界の平和と国家の興隆、国民の幸福と繁栄を祈られ、実に九万一千余首もの和歌を作られています。昔、藤原家隆が八十年の一生で、三万余首で最高といわれていました。明治天皇はそれをはるかに超えておられます。

あさみどり 澄みわたる 大空の
 廣きをおのが 心ともがな
 目に見えぬ 神にむかいて はじざるは
 人の心の まことなりけり
 四方の海 みなはらからと 思ふ世に
 など波風の 立ちさわぐらむ
 明治天皇は、急激な西洋化を憂い、悠久の歴史の中で日本人が大切にしてきたものを「教育勅語」に表され、十二の徳目を示されました。
【新嘗祭】十一月二十三日（勤労感謝の日）
 十一月二十三日、その年の新穀を神様に供え神恩に感謝する新嘗祭が全国の神社で斎行されます。「新」は新穀を「嘗」は「馳走を意味します。五穀



の豊穰を祈願する二月十七日の「祈年祭」と対をなし、「瑞穂の国」と称えられるわが国で、古くから重要なお祭りとしてされてきました。

「豊葦原の瑞穂の国」の祭祀を司る最高責任者である天皇が、その年にとれた新穀を天神地祇に供えて、農作物の収穫に感謝するとともに、自らも初めて召し上がる祭典です。

新嘗祭は、宮中祭祀の中で最も大切なお祭りです。毎年十一月二十二日夕刻から翌未明にかけて宮中三殿に隣接した神嘉殿で、行われます。具体的には、「夕の儀」（午後六時～八時）と「暁の儀」（午後十一時～午後一時）の二度にわたり、その年にとれた新穀を天照大御神はじめ八百万の神々にお供えし、お告げ文を奏上し、天皇陛下御自身が神々にお供えしたものと全く同じ米のご飯、粟りご飯、白酒、黒酒などをお召上りにならる。神楽歌が絶え間なく演奏されまゝ、この日は祭日で、全国の農山漁



村ではもちろんのこと、それぞれの地方で神社に新穀を捧げ、その年の収穫を神々に感謝してお祝いしてきました。また、昔は新嘗祭が終わるまでは、国民は新穀を口にしないのが習わしでした。戦後、勤労感謝の日と代えられました。新嘗祭は、元々このように天皇と国民とが一体となって天地自然の神々に感謝し、収穫を喜び合う国民的な祭典だったのでした。

江戸しぐさの寺子屋のワンポイントアドバイス



グローバルな時代の中で生活している私たち大人も子供たちも規範意識が低くなっているために、人間関係においても苦労することがあります。社会でのルール、マナー、エチケットを守ること

の意識を高めるためには、何から教えるのがよいか迷うところもありますね。

私たち母親は、つい躰という形にばかりに気を取られがちですが、その前に「心」の豊かさを教えることが大切です。

日本には「江戸しぐさ」という江戸時代から伝わる礼儀作法のひとつ「子育てしぐさ」が良いお手本になります。丁稚奉公の小僧さんを、優秀な商人に育てるためのマニュアルです。気配りのできる子に育てるために参考になりますので、ご紹介します。

【三つ心、六つ躰、九つ言葉】

十二文、十五理で末決まる

「三つ心」三歳までに心の豊かさを教えなさい。

「誰かのために役立つ喜び」「良い行いとは何かを気づかせる。」

「六つ躰」六歳までに躰をしなさい。躰とはトレーニングの事で「挨拶をしなさい」「お礼を言いなさい」など

「九つ言葉」この年までには挨拶は当たり前で挨拶の後に相手への気遣いを表現できることが大切。

「十二文」十二歳までに文章を書けるようにしなさい。季節のご挨拶を入れての挨拶状、お礼状、おわび状を書けるのが理想。昔の十二才は小さい大人として扱われたための教え。

「十五理で末決まる」十五歳までに世の中の理（道理）を理解させなさい。昔は十五歳で元服、大人として扱われた。

「心、躰、言葉、文、理」この順番が大事で、心を教える前に躰をしてはいけません。

「ぶれない心」を持つことを教える大切さ、私たち母親も前の世代の教えから学ぶことが多いです。

（山下紀陽枝）

和歌コーナー

てらこやで はじめてしたよ おしゅうじを

おおきくかけた もっとかきたい

年小 N・Y

☆はじめてのお習字。大きく、力強く書けました。

しゅうやくん(二才の弟) おおきくなって

でんぐりがえりできたらいいな さかあがりも

年中 N・H

☆弟想いの優しい心が伝わってきます。

てらこやで まきびしをみた さわつたよ

ひつつきむしと どっちがいたい

年長 T・Y

☆菱の実は忍者のまきびしの形をしていましたね。



てらこやで まきびしを見て あそんだよ

いたくてふしぎ みんなであそんだ

年長 M・S

☆菱の実で遊んで、おもしろかったですね。

てらこやで ひつつきむしで あそんだよ

かえせよ ぼくのひつつきむし

小学一年 H・H

☆四、五句で、生き生きした和歌になりましたね。

ひつつきむし くつつけたよ せん生に

だれにもないしょ ひみつのことだよ

小学一年 K・S

☆だれにもないしょで、先生の背中につけたのね。



ひしのみは くるくっていたい さわつたら
ひつつきむしより いたかったよ

小学一年 Y・K

☆忍者は菱の実をまねしてまきびしを作ったのね。

てらこやで おしゅうじしたよ ひさしぶり

てがふるえたよ きんちようしたよ

小学二年 N・E

☆一生懸命、心をこめて書け、素晴らしいです。

やまけしき きれいになった あかいろに

もみじだったよ 花のよう

小学四年 M・A

☆秋の山は赤い花が咲いたように美しいですね。

寺子屋で びよんびよんくつつく ひつつきむし

いろんな種類で あそんでみたよ

小学四年 H・A

☆ひつつきむしにもいろんな種類がありますね。

もみじの葉 かがやく夕日 てらされて

まっかにそまる 山の上

小学五年 Y・Y

☆もみじの葉は日に照らされると、燃えるようにそまって、とってもきれいですね。

寺子屋で ひつつきむしが現れた

ひつつけられると ほんまにいやや

小学六年 N・K

☆思わずほほえんでしまいます。素直な和歌です。

寺子屋に 初めて行って おもしろい

みんなやさしく また来たくなる

小学六年 M・Y



☆豊かな線質でお習字が書け、感心しました。

声に出してひびきを味わおう

今月の言葉

古事記

第十二代景行天皇の第二皇子

日本武尊

大和は

くに

国のまほろば

あおがき

たたなづく青垣

やまこも

山隠れる

やまと

大和し

うるはし

(大意)

わがふるさと大和(現奈良県)は、国の最

もすぐれたよいところ、畳み重なるように

つづいて青々とした山脈、その山々にか

こまれている大和の国は本当に美しい。

次回は、**十二月十五日(土)**、**なでしこホール**です。
お正月飾りを作ります。

(文責・藤波)